

【練習問題】

〔2〕 次の文章を読んで、後の問題に答えよ。

後嵯峨の法皇の、御熊野詣ありける時、伊勢の国の夫の中に、本宮のおとなし河といふ所に、梅の花の盛りなるを見て、

おとなしにさきはじめけむ梅の花^(A)にほはざりせばいかでしまし

夫が歌には、いみじき秀歌なるべし。この事御^(ア)下向の時、道にて自然に聞こし召されて、北面の^(イ)下藤に仰せて召されけり。北面のもの、馬にてあちこちうち巡りて、本宮にて歌よみたりける夫は、いづれぞと問ふに、是こそ、^(ウ)件の夫にて候へ^(a)と、そばにて人申しければ、仰せなり。参るべしといひける、御返事に、

はなならばをりてぞひとのとふべきに なりさがりたるみこそつらけれ

さて、返事にはおよばで、おめおめと馬よりおりて、具して参りぬ。事の子細聞こし召されて、御感ありて、何事^(エ)にても所望申せと仰せ下さる。言ひ甲斐なきみにて候へば、何事の所望申し候ふべき^(b)と、申し上げけれども、などか、分に随ふ所望なかるべき^(c)と、仰せ下されければ、母にて候ふもの、養ふほどの御恩こそ、望む所にて候へ^(d)と、申し上げければ、百姓なりけるを、

【出典】

『沙石集』巻第五末の二

【重要語句】

- いかで
- いみじ
- 自然に
- 具す
- 子細
- 言ひ甲斐なし
- など
- よし
- わりなし
- 心得

【敬語】

- 聞こし召す
- 仰す
- 召す
- 候ふ
- 申す
- 参る
- 給はる

【重要語法】

彼の所帯公事^(B)一向御免ありて、永代を限りて、違乱あるまじきよしの御下^{くだしおみ}文給はりて、下りけるとぞ。^(C)わりなき勸賞にこそ。百姓が子なりけれども、稚児だちにて、歌の道心得たりけるとぞ、人申しける。

〔沙石集〕による

(注) 夫……雑役に従事する男。

所帯公事……耕作地に課す租税。

問一 傍線(ア)～(エ)の読み方を、平仮名を用い現代かなづかいで記せ。

(ア)		(イ)		(ウ)		(エ)	
-----	--	-----	--	-----	--	-----	--

- けむ
- せばしまし
- 未然形＋れ
- こそ～已然形
- にて
- 已然形＋ば
- 未然形＋ば
- で
- 連用形＋ぬ
- 未然形＋る
- か～連体形
- まじ
- とぞ
- にこそ
- ぞ～連体形

問二 文中の会話の部分(a)～(d)には、末尾にだけカッコが付けてある。

I 会話の始めはどこか。それぞれ、始めの三字を原文のまま抜き出して記せ。

(a)		(b)		(c)		(d)	
-----	--	-----	--	-----	--	-----	--

II 会話の発話者は誰か。それぞれ、該当する人物を次の1～5の中から選び、番号を記せ。

- 1 居合せた人
- 2 世間の人びと
- 3 夫
- 4 法皇
- 5 北面のもの